1　リコーダーの指導について

（1）笛穴をふさぐのが厳しい児童への指導

・リコーダーを始めたばかりの３年生や指が小さい子には，笛穴を押さえる場所さえ理解していれば，きれいな音が出なくても気にしないことが大事です。

・笛穴が指の腹でしっかり塞がれているか？裏穴と一番上の穴で「シ」の音を出して確認します。　＊指穴シールの使用　＊笛ピタシートの使用

（運指の練習）シシシ→ラララ→シラシラ→シラソ・・・と音を増やして練習

（2）リコーダーで低いドをきれいに出せない子への指導

・「ドやレは，最初は音がでなくても大丈夫！！」と言って，リコーダー嫌いにさせないことが一番です。～笛ピタシートの使用も効果的

・低い音は，必要以上に息を強く入れると音がひっくり返り，不快な音になります。１音１音，適切な息で吹くことを指導すると良いでしょう。

（3）リコーダーが苦手な子への支援

・「今できなくても大丈夫！！」というスタンスで。３年生の『ゆかいなまきば』は，子どもたちが楽しんで，そして「リコーダーを上手に吹けた」と自信をもたせることのできる曲です。　♪いちろうさんのまきばで♪～シシララソ

・ブレス（息継ぎ）で，思いっきり吸い込むと，コントロールが狂い，最初だけボリュームが大きくなります。また，ブレスを忘れると息がもたなくなり，音がフラフラし，最後はピッチが低くなります。

・吹き方は，強すぎず，弱すぎずです。息が強いとピッチが高くなり音が割れます。反対に弱いとピッチが下がり，音がフラフラします。

※指穴シール～塞ぐ場所がわかりやすい
※笛ピタシート～滑りにくい素材（弾力性あり）なので，笛穴を塞ぎやすく，音漏れも防いでくれます。１セット８枚　￥８００
※魚の目パッド～市販の魚の目治療のためのシールです。真ん中がくりぬいてあるので，笛穴にぴったり！１００均にもあるらしいです。
※スズキリコーダーJr SRG422・433～他のリコーダーより１㎝程度小さい。
※ソプラニーノ～サイズは小さいが，音が高い。

2　鍵盤ハーモニカの指導について

鍵盤ハーモニカについて

〔ヤマハの鍵盤ハーモニカ　～ピアニカ〕

錆びにくいリードを使っているため，正確な音程を保てる。また，明るく澄んだ音色。ケースの中に吹き口とホースがしまえる。ケースは開けた状態で譜面台にある。ホースを止めることができるパイプクリックがついている。

〔スズキの鍵盤ハーモニカ　～メロディオン〕

リン青銅リードを使用しているので，しっとりした音色や響き。価格が少し安めで，学校斡旋が多い。最近のケースはセミハードで，ネームタグに反射コーティングあり。机上でカタカタ音がしない。

〔ゼンオンの鍵盤ハーモニカ～ピアニー〕

まとまりのある音が特徴的。価格も安め。

※他，国内生産の格安ブランドもある。＊共立コーポレーション

（1）指使いが不器用な子・低学年への指導

・運指やタンキングにこだわると子どもの負担が大きくなります。先ず，楽器に慣れて息を吹き込む力をコントロールさせることが大事です。タンキングを指導する場合，ドで「トゥートゥー」と遊びながら練習するのがおすすめです。

・運指については，最初は親指だけで演奏し，徐々に用いる指を増やすことがおすすめです。１年生の終わりから２年生にかけては５本の指が使えることが望ましいですが，個人差もあるので「指１本でもいいよ。頑張ろう。」と声がけし，できたら，「今度は２本に挑戦しよう」と励まし促すのが良いと思います。指１本でも演奏の楽しさを感じさせることが大事で，そのうち，指使いを工夫しながら自ら弾こうとすることができます。リコーダー同様，うるさいことを言って楽器嫌いにさせないことです。

（2）鍵盤ハーモニカ吹き方指導で最も重要なこと

・鍵盤の奏法を教えるのではなく，鍵盤を使って音楽を楽しむことを教えるということを念頭にして，音楽の授業で育てることは，技能だけではなく，『表現する心』を大事にすることが大切です。

小学校の鍵盤ハーモニカ指導で習得させること

①吹き方～お腹を使った強弱の付け方

②鍵盤と運指の理解　　※低学年の運指は無理のない範囲で

③タンキング

※低学年では，指使いで音を切ることでも良い。「できなくても知っている」程度にし，成長とともに楽曲に合わせてゆっくり指導する。

（3）譜面を簡単にする方法

・その子に合わせて，全音符や二分音符に変えたり，難しい部分は休ませたりすることでも大丈夫。主旋律はリード楽器（キーボード）に任せることにより，かえって音の幅が広がることもあります。　※別紙

3　その他

（1）器楽合奏に苦手意識のある子への指導

・指導者が，習熟差があって当たり前という気持ちで優しく，褒めながら指導しましょう。苦手意識をもっている子どもの練習をこまめに聴くことで，ポイントを助言してあげるなど，寄り添った指導が大切です。

・楽譜を簡単にすることも必要かもしれません。具体的には，楽譜の音の数を減らしたり，部分的に休ませたり，１音を伸ばしたりすることです。

・音符に強い抵抗がある場合は，役割を考えてあげることも必要です。思い切ってタンバリンやトライアングルといった打楽器に変更してあげるのも良いと思います。中・高学年となれば，タンバリンやトライアングルが幼稚で恥ずかしいという気持ちをもつこともあります。そんな時には，モンキータンバリンやリズムティックタンバリン，マルチトライアングルなどで，『パーカッション』って，とても大事でかっこいいとアドバイスすることで，自信をもって取り組みます。　※楽器確認

（2）心がけたいこと

・子どもたちに「どんな音楽の力をつけさせたいか」を明確にすることです。人は誰もが音楽を聴いたり，歌ったりすることが好きなはずです。音楽は「音を楽しむもの」でなければなりません。授業の中の活動が楽しいものであり，楽しみながらこどもたちが学んでいくことが望ましいです。」

鍵盤ハーモニカ・打楽器指導のポイント

≪鍵盤ハーモニカ≫

1　基本は姿勢！

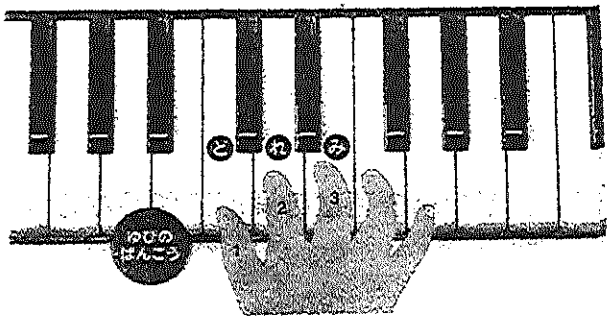
ここでも立腰です。普段から心掛けているのでできるはず！

左手はホースの根元あたりを持たせましょう。左利きの児童も右で弾かせます。

指が伸びていると親指が上手に使えません。左手で拳を作り、それを包み込むように握ります。そのままの形で鍵盤に沿えるとちょうどいい形になります。

立奏の時も基本は同じです。中学年からは立奏でできるとベストですね。

2　指づかい



最初のうちは鍵盤にドレミを書いてあげるか、シールを貼ってあげるといいですよ。ドレミで厳しい子は、シールの色を音ごとに変えて、楽譜のドレミもその色に合わせてあげると効果的。
ドレミを書く時は指で押さえるところよりも上のところに書くのがポイントです。

※１本指で弾いてしまう子には
　指や爪にドレミと同じ色のシールを貼って練習するといいです。
　例）赤シールのド→親指に赤シール　　青シールのレ→人差し指に青シール　など

3　タンギング

「トゥー、トゥー」と発音するのが基本ですが、難しい場合は「トー、トー」でも大丈夫です。最初は声に出して発音し感覚を覚えさせます。その後音に出さなくても「トゥー」と言えるように練習します。

同じ音を色々なリズムでタンギング(先生のまね)、タンギングリレー(子どもたち同士)などで楽しく覚えられるといいですね。

※鍵盤ハーモニカでしっかりタンギングができていると、リコーダーになった時に苦労しないので、ぜひ１，２年生のうちにマスターさせたい技術です！

≪打楽器≫

1　リズム指導

・音符・休符を使ってリズムレッスン！（授業のはじめにちょこっとレッスン）

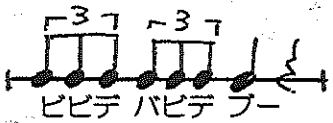
例）

タン タン タン ウン　タン　タ タ タン ウン ターア　タ　タン タン　タ タ ウ タ　タン

・学芸会の曲など、「複雑なリズムがなかなか覚えられない。」「みんなのリズムがなかなかそろわない。」などの時は、言葉をはめてあげると、すぐに覚えることができ、そろいやすいです。

例）

おーっとこまった

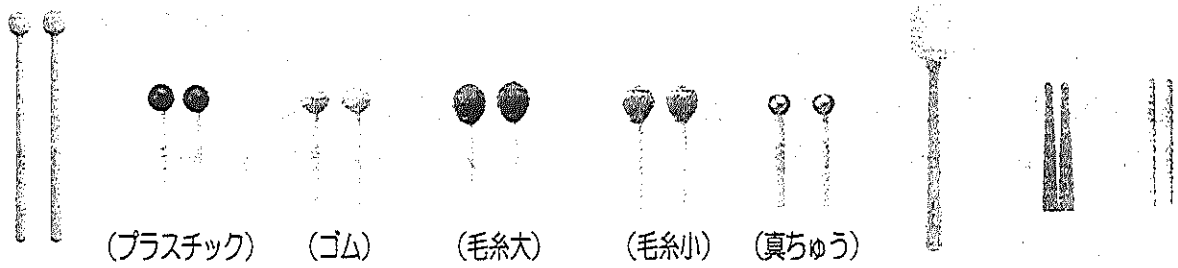


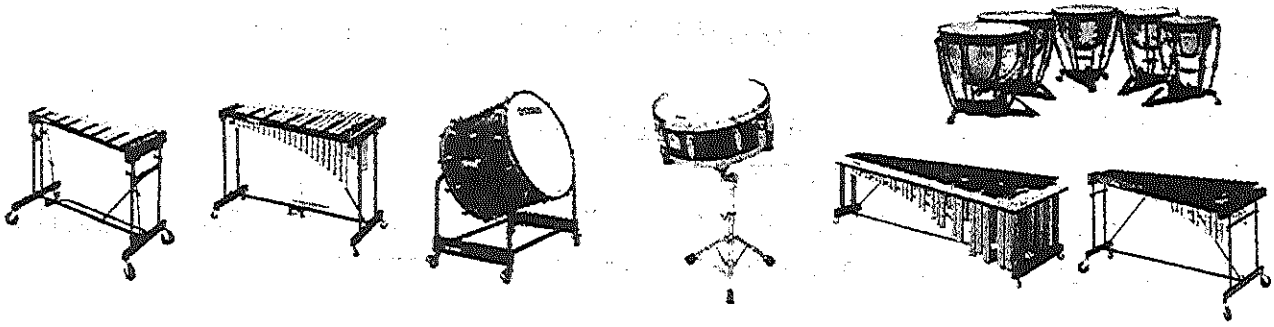
ビビデ バビデ ブー

やってみよう！

2　バチの選び方・持ち方

・打楽器のバチにはいろいろな種類があります。どのバチをどの楽器に使うかわかりますか？



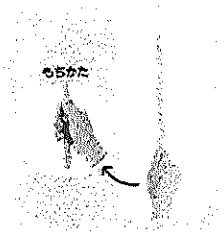


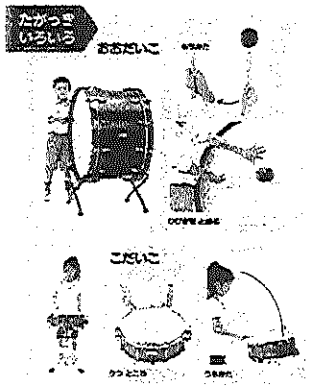
３　各楽器の奏法のコツ

○大太鼓…真ん中を打つようにします。その際、左手で打面を押えながら打ちます。
大太鼓にも表裏があります。左利きだからと言ってひっくり返しては使いません。

○小太鼓…児童に合わせて小太鼓の高さを調節します。へそよりも少し低い位置に打面がくるようにしてください。
打面は真ん中か、真ん中より少し上です。

スティックの持ち方
全体の下１／３の所を持ちます。





○木琴・鉄琴…鍵盤の真ん中を叩きます。押し付けないように指導してください。バチ選びもポイントになります。

○ティンパニー…チューニングをして使います。右に行くほど小さくなるように置きます。打面は手前１０センチほどの所を打ちます。

○タンバリン…利き手ではない方で持ちます。持っている手は動かさずに利き手で叩きます。

○モンキータンバリン…利き手で持ち、振りながら持っていない方の手に当てます。

・
・
・

その他、たくさんの楽器がありますが、実際に叩いて奏法を確認してみましょう！